

進行/再発 大腸癌

FOLFIRI+パニツムマブ療法

C-13-1

< 14日間隔 >

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7~14日目	第15日目
治療内容									
検査	採血	○							○
診療	副作用の問診	○							○
	検査結果	○							○
治療中	①WBC 3000未満	-	-	-	-	-	-	-	-
点滴	①生食100ml +アロキシ0.75mg +デキサート3.3mg×2A 点滴静注【30分】	↓							↓
	②生食50ml 点滴静注【15分】	↓							↓
	③生食100ml ベタニドマブ 6mg/kg	↓							↓
	④生食50ml 点滴静注【15分以上かけてルー トフラッシュ】	↓							↓
	⑤5%ブドウ糖250mL レボホリナート (200mg/m <sup>2</sup> ) 点滴静注【2時間】⑤' と同時	↓							↓
	⑤' 5%ブドウ糖250mL イリノテカン塩酸塩点滴静注 (150mg/m <sup>2</sup> ) 点滴静注【90分】⑤と同時に	↓							↓
	⑥生食50mL 5-FU (400mg/m <sup>2</sup> ) 点滴静注【全開】	↓							↓
⑦生食500mL 5-FU (2400mg/m <sup>2</sup> ) 点滴静注【4.6時間】	↓							↓	

減量基準

重度 (Grade3以上) の皮膚障害発現時の用量調節の目安

皮膚障害発現時の本剤の投与量	本剤の投与	投与延期後の状態	本剤の用量調節
6mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	6mg/kgまたは4.8mg/kg
4.8mg/kg	投与延期	6週間以内にGrade2以下に回復	3.6mg/kg
3.6mg/kg	投与中止		

※6週間以内にGrade2以下に回復しなかった場合は、本剤の投与を中止する。

看護のPoint!!

特に初回投与時と投与後3時間くらいは、インフュージョンリアクション発現に注意。異常があればすぐに主治医に報告  
初回のペクティビックスとそのあとの生食は投与時間を守ってね。

2回目投与以降は投与時間が多少早くても遅くても大丈夫。イリノテカンは90分以上かければ大丈夫  
皮膚障害の頻度が高い。投与後1週間以内に発現しやすい。早期からケアと対策が必要。

主治医やがん認定看護師と相談しながら症状にあった対策が必須!

口内炎、下痢の可能性もある。持参薬にワーファリンがあれば主治医に報告 (5-FUとの相互作用あり)

特徴的な副作用は下痢。投与中~直後の早発型と、投与24時間以降の遅発型。ロペミンなどで対処  
骨髄抑制と吐き気、脱毛の可能性あり。